

日本インテリアコーディネーター協会 広瀬会長、北谷副会長インタビュー

コロナが変えた住生活の実態と動向

〈聞き手・藤下梨奈記者〉

既存空間に新たなテイスト提案

家具で豊かな生活をイメージ

— 新型コロナウイルス感染症によってインテリアコーディネーターにはどのような影響や変化がありましたか。

北谷 仕事の影響としては、現場の状況によって仕事が止まることもあり、仕事が滞ってしまうなどの影響があります。しかし、当協会のインテリアコーディネーターはフリーランスも多く、少ない人数が進められる案件では、細心の注意を払いながらの工事や打ち合わせが続いていた

ケースも少なくないと思います。家に関する時間が減ったというところで、緊急事態宣言の解除後は、一般生活者のインテリアへの関心の高まりを実感しました。リフォームから模様替えまで需要は確実に増えていると思います。

— 具体的に、どのような場面でインテリアへの関心の高まりを感じますか。

北谷 問い合わせ件数が増え、以前よりも書斎がある

たいという熱量は、お客様との会話の中で強く感じます。他の業界と比べ、動きが止まってしまったというより、逆に注目を浴びたとも言えるのではないのでしょうか。

— 在宅勤務などをはじめ、今まで外で行っていたことを、家の中で行うことが増えました。そのような環境のなか、住まいや暮らしはどのように変化していくとお考えですか。

北谷 在宅勤務が始まり、もともと書斎がある

家はそう多くないので、リビング、ダイニングを使ったという人も多々あります。「リビングで仕事をすると」と、オンとオフの切り替えが難しい。何か工夫ができないか、などという話をお客様から聞きます。それは今ならではの視点なのではないかと思えます。

その他、外出自粛の影響で、食品や生活用品のまとめ買いをする人が増えたので、パントリーは必須という要望が増えています。

また、打ち合わせの中で、「外から帰ってきて玄関ですぐに手を洗いたい」という声がお客様の方から出るようになってきています。

手洗いスペースは、今までの日本人の感覚だと洗面化粧台のようなイメージが強く、人目につく玄関に設置するのはあまり格好の良いものではないと抵抗があったかもしません。しかし、一つひとつのパーツで考える、様々なデザインのある、様々なホルダーや水栓金具などがあって、それを組み合わせて、気に入ったスタイルを貼ってみたいという、むしろ見せたい空間になってくると感じます。

最近のインテリアテイストのトレンドなどがあります。最近のインテリアテイストのトレンドなどがあります。

北谷 世界的なインテリアトレンドの流れで、安定や安らぎを与えてくれるインテリアとして植物柄などの自然モチーフ、温かみのある色合い、ラウンドのフォルム、クラフト感などが注目を集めています。また、現実的には空間全体をトレンドでまとめるのではなく、例えば、モダンでシンプルな既存の空間に優しさを温かみのあるテイストを組み合わせてミックスすることを提案したりします。そのようなテイストをミックスするようになるにつれて、緊急事態宣言発令中に、ベランダライフが注目されました。ここ数年各社アウトドア家具も充実してきていますし、購

入した人も多いのではないのでしょうか。また、観葉植物も一緒に提案して、くだけたという声も増えています。

— インテリアコーディネーターの際、どのような視点で家具を選定されていますか。

北谷 お客様が暮らしている中で何を大事にしているかで全く変わってきます。例えば、ペットと暮らす人で、打ち合わせの際にもしきりにペットの話が出てくるような場合は、ソファ一つをとって、も張りの地が引っかけに強いとか汚れにくいとか、そういうところから選んでいきます。犬や猫がいる風景を想像して、提案することもあります。

最近ではサーフィンが趣味のお客様に、リビングや玄関にサーフボードを飾るようにすると合わせて、デザインに合わせた家具を取り入れた家具を提案しました。

提案する際に、なぜそれがその空間にこの家具を選んだのかを説明して受け入れていただけるようにしています。

— 協会の紹介動画をYouTubeに投稿されていますが、今後協会を広げていきたいなどの意図があるのでしょうか。

広瀬 現在インテリアコーディネーターの有資格者はおよそ6万人です。当協会の会員数は300人ほどなので、全体

の0.5%くらいになると感じます。インテリア関連業界にいろいろなお提案をしていくために、共通の理念を持った仲間を増やし、例えばお客様に一番近いポジションで仕事をしていますので、お客様のニーズに対応する内容を企業の皆様とプロジェクトを組んで解決していくなど、色々な事に挑戦をしていきたいと思っています。

これからはオンラインの打ち合わせが多くなっていくと思いますので、いかにお客様にご提案を伝えていくか、また、今日のようにお会いして、目を見て話をする機会をどのようないかに取っていくか、すごく大事だと考えています。

今日はナチュラルなジャケットを着ているから多分カジュアルなものが多いのだと思う、などといった、私たちはお客様のご希望をお聞きするだけでなく、全体を把握しながらご提案をさせていただいています。

インテリアコーディネーターという仕事は、今まで体験してきた経験をお客様のために役立てることができると感じています。多くのお客様から、お客様がどのようなライフスタイルを希望しているのか、ストーリーの一部分を一緒に考える仕事なのです。



広瀬直樹会長



北谷明日香副会長

(次頁へ続く)

（前頁から続く）
——顧客の持ち物や洋服などからどのような提案をするかヒントを得ているのですね。

北谷 言葉になさるご希望で、ご自身の中から醸し出される印象が違場合もあります。自身が認識されていない要素に着目して提案してみると、意外に気に入っていただけることも多いです。

北谷 そうですね。広瀬と一緒に家具を見に行ったりすると、打ち合わせの時と全然違ったものをお選びになったり、そういう時間は、お客様も楽しいし、私たちも楽しいです。インテリアの打ち合わせは楽しくないといけないのです。

——顧客と家具を選ばれる際、コーディネーターはどのように家具を提案されるのですか。
北谷 お客様にもよりますが、家具を選ぶ過程を楽しみたい人と、ある程度方向性を決めたらあとは任せるという人もいます。

後者の場合は、ご提案した家具の確認だけで決まってしまうこともあり、選ぶ過程を楽しみたいお客様には寄り添った形でショールームを回ったりします。ただ、1件目と2件目のショールームで選んだものにずれがある場合や、組み合わせに問題があるようなときは、アドバイスや調整をさせていただき、現在家具選びをお手伝いしているお客様は、ご自宅の新築にあたって家具を一つひとつ選びたい、自分だけで決めておきたいというご様子で、直接依頼いただきました。今回のように新築、リフォームの施工会社側ではなく、私たちがセカンドオピニオンとして顧客側に立ち、アドバイスすることも少なからずあります。

広瀬 難しいのが、例えば建具と生活動線など、平面図だけではわかりづらいですよね。扉を開ける向きと照明のスイッチの位置はこれでいいの、など。日々何気なくする動きもいかにスムーズにできるか。家具を買ってみたいけど入らないという経験があると思います。インテリアといっても室内設計のほうに少しづつ入り込みながら、ディテールも含めて考える仕事になるのではないかと感じています。最近では造作家具なども提案しています。

北谷 ただ、業務範囲によってインテリアコーディネーターは最後の仕上げ段階で入るケースも多く、最初にわかっている

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

り、いろいろな残念なことが重なったのに、ということが山ほどあります。

北谷 この夏手配した家具にメーカーが抗菌処理をサービスマンでつけてくれた、抗菌済みの丁寧な梱包で納品されました。お客様に安心感を与えてくれたと思いますし、メ

顧客に寄り添いストーリーを築く

JAPANSスタイルを追求

北谷 協会としての今後の展望を聞かせてください。
広瀬 コロ禍の中で、打ち合わせやプレゼンテーションの仕方などもどんどん変わり、Zoomなどのミーティング、3D、バーチャル、AI、BIMなど新しい技術を使いこなしていく事ができる若い人を育てていくことがすごく大事なことだと思います。
北谷 この仕事の社会的認知度をもっと上げていかなければならないと思います。
——コーディネーターの価値を上げていく具体的な策はありますか。
北谷 一般生活者に広く知っていただくという意味では、動画やSNSも含めて発信し続けることでしょうか。
——コーディネーターの働きや、働きやすさや、国民健康保険など、プラットフォームを作ってきたと思います。今後さらさらのインテリアコーディネーターが責任と誇りをもって仕事を遂行すること、そしてそれがインテリア業界の活性化に繋がれば、業界の中での存在感も高まると思います。
広瀬 8年前協会を立ち上げるまでは、職能団体としてインテリアコーディネーターをバックアップするような体制が整っていませんでした。協会としてはコーディネーターの人が、働きやすいように賠償責任保険や、国民健康保険など、プラットフォームを作ってきたと思います。今後さらさらのインテリアコーディネーターが責任と誇りをもって仕事を遂行すること、そしてそれがインテリア業界の活性化に繋がれば、業界の中での存在感も高まると思います。
また、CPD制度を通して、コーディネーターの知見、実力の向上を今後もバックアップしていきたいと思っています。
私たちが多様化する世界の動きの中で、戦後の日本のインテリアが過去の日本にあった素晴らしい文化を継承し、JAPANSスタイルになるまで追求していかねければならないと思っています。長い時間がかかるとは思いますが、これからの人材を育て、さらに社会貢献をしていきたいと考えています。